

平成29年度 第1回 平塚市介護保険運営協議会 会議録

平成29年7月26日(水) 13:30~15:00

市庁舎本館6階 619会議室

出席者(委員)

上野会長 前田副会長 熊澤委員 渡辺委員 尾上委員 西澤委員 柳川委員

小幡委員 内田委員 増井委員 石内委員 飯田委員

(12名出席 欠席 古尾谷委員 大畑委員 船水委員)

(事務局)

津田福祉部長 小林介護保険課長 荒課長代理 宮代担当長 細谷担当長

高橋主管 平井主査 平田主任 田中主事 吉川主事

I 開会

議事に入る前の報告事項

過半数の委員が出席しており、平塚市介護保険運営協議会規則第3条第2項により会議は成立。また、傍聴者はなし。

II 議事

報告1 平成28年度介護保険事業の施行状況について

資料1に基づき、介護保険料関係、要介護認定・要支援認定関係、介護給付関係について、事務局より説明。

委員 前年と比較して、平成29年3月の65~74歳の認定率が低下したことについて、介護予防事業の成果によるものと考えているか。

事務局 掲載している数値は、新総合事業の利用者数を含んでいない。昨年、サービスを全く利用していない受給者に対して制度説明を行った結果が反映されていると考える。

委員 新総合事業の成果がわかる指標はあるか。平塚市として、新総合事業等の地域支援事業の実施により、自立した高齢者が増加しているかどのように評価しているか。

事務局 平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第6期計画〕）において、各施策の成果指標を設定している。平成28年度に目標値の達成状況を確認し、事業の効果等について評価を行っている。その結果については、第7期計画での施策の展開に活用していく。

報告2 地域密着型サービスの指定について

資料2に基づき、地域密着型通所介護事業所の新規指定、地域密着型通所介護事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所の指定更新、地域密着型通所介護事業所及び（介護予防）認知症対応型共同生活介護事業所の廃止について、事務局より説明。

（質問・意見）特になし。

その他 平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第7期計画〕）のアンケート結果及び 庁内検討の進捗状況について

アンケート結果については、介護保険と関連がある主な内容について説明。

庁内検討の進捗状況については、庁内各課及び関係機関の職員で構成する4つの部会で施策検討している旨説明。

（質問なし、以下意見）

委員 今後、高齢者が増加する中で、支えていく若い世代の負担も大きくなると思われる。そのような世代への支援も必要だと感じているので、第7期計画に活かしてもらえればと思う。

委員 基本目標1「健康で生きがいに満ちた暮らし」を達成するためには、地域での取組みが重要になると思う。私は10年ほど傾聴ボランティアを続けており、高齢者と接する中で、元気な高齢者を増やすためには外出の機会を確保していくことが必要だと感じている。例えば、私の住む地域では月1回、高齢者向けのサロンを開催しており、このような活動が増えればよいと思う。

委員 地域包括ケアの実現のためには、医療と福祉が独立するのではなく、融合した上で、住民の皆さんをどのように支えていくのかということが大切であると思う。アンケート結果を踏まえ、地域包括ケアの柱が見えてきたところで、いま一度それを示した上、取り組んでいくことが大切ではないか。また、若い世代も巻き込んで取り組んでいかなければならないと感じている。今後、医療や福祉だけでなく、平塚市全体の大きな視点との擦り合せが必要ではないかと思う。

委員 地域包括ケアの充実にあたっては、薬剤師が十分に活用されていないと感じている。何か機会があれば、地域包括支援センターの方でも積極的に活用していただければと思う。

委員 介護サービス事業者として、人材の確保に課題を感じている。平塚市内には、特別養護老人ホームの入所待機者が多数いるが、施設を開設するためには従事者も安定的に確保していく必要がある。

委員 昨今、老老介護が問題になっているため、人材をどうするかが課題である。若い世代が介護の業界に参入できるよう支援してほしい。

委員 アンケート調査では、半数以上のケアマネジャーから、医療との連携が取れているとの回答を得ている。現実的には、それぞれの介護療養型医療施設がどのような症状の利用者を受け入れることが可能かといった、詳細な情報は知られていないと思う。また、病院としては法律上、宣伝に制約もあるため、情報連携の難しさを感じている。空床の情報等を含め、地域と連携する仕組みがあればよいと考える。

委員 平塚市内の老人クラブでも、地域間の関わりが少ないと感じている。また、自治会や社会福祉協議会との連携についても、地域によって温度差があると感じている。今後、地域間の格差を解消し、他の団体との結びつきを強めていくことが課題である。老人クラブへの参加者を増加させ、元気な高齢者を増やしていきたい。

委員 計画は6期目を迎え、介護保険事業が充実してきたと感じている。地域包括支援センターについては、その役割も含めてまだ認知度が低いと思うので、関係各課で住民の意見を聴きながら、アンケート結果も踏まえ、計画づくりをしてほしい。また、アンケート結果から「介護保険料もサービス内容も現状維持がよい」と考える市民が多いことがわかった。それを踏まえ、介護に関わっていくというスタンスが求められていると思う。

委員 各地区社会福祉協議会では、地域の実情を踏まえ、高齢者の皆さんの参加を促しながら、さまざまな取組みを行っている。

事務局 各委員からの御意見を第7期計画策定の参考とさせていただきたい。例えば、介護人材の確保については、施設・サービス・介護人材部会において引き続き検討していく。今後も本協議会で御審議いただきながら、よりよい施策を計画していきたい。

次回の運営協議会の開催は、10月中旬を予定している。

Ⅲ 閉会